



NPO日本朗読文化協会

朗読ニュース

2013年晩秋号

2013.8.24「平和を考える集い」より



生きとし生けるものの詩



献読



合奏でつなぐ平和への想い
白門グリークラブ



7月八重洲朗読会



9月八重洲朗読会



10月八重洲朗読会



八重洲ブックセンター



9月満員のお客様

○ 平和を考える集い



「平和を考える集い」を終えて

25 年度実行委員長 小泉幸子



NPO 日本朗読文化協会の三大イベントの一つ「声に出す平和への祈り」は今年で 10 回目になります。一昨年、昨年と当日のお手伝いをしましたが、熱い想いが伝わってくる見事なステージでした。ただ残念に思ったのは、会場に空席が目立ったという事です。これは今年も同じ状況でした。それは、戦争体験者が減少する中で話題にする機会も少なく関心が薄らいでいく傾向にあるからではないかと推察しました。今後も諦めることなく、こうして一堂に会し戦争の悲惨さや平和の尊さを語り継ぐ事が大切だと痛感した次第です。さて、10 回目のイベントについては港区の意向によりそのタイトルを「平和を考える集い」とし、開催日が 8 月 24 日と変更されました。港区との最初の打合せで、まずステージに掲げられた「祈り」の額を外す事、協会が担当する二部の所要時間を昨年より 30 分ほど短縮する事等が提示され、ここで少々戸惑いました。その他細かい点で幾つか問題点がありましたが、いよいよ本番間近になって、プログラムには「主催は港区、企画構成は NPO 日本朗読文化協会」を表記しないと知らされた事には本当に首を傾げてしまいました。しかし、理事長の心強いご声援、運営委員長、事務局長の温かい心遣い、精力的に動かされた司会、演出のお二人と 6 名の出演者、積極的に取り組まれたスタッフ並びに会員の方々がそれぞれ一丸となって今年のイベントを最後まで支えて下さいました事に、心より感謝申し上げます。おかげさまでイベントを終えた瞬間に、これまで考えていた「平和」を見つけた気が致しました。

「平和を考える集い」に参加して

坪谷美穂子



8 月 24 日 (土) 港区主催「平和を考える集い」に初めて参加させて頂きました。まず一番心を打たれたのは、日本朗読文化協会の方々はこの催しに対する誠実で真摯な姿勢です。実行委員の皆様は、事前の港区の打合せから、朗読する詩の準備、当日の流れの管理、そして次回につなげる為の反省会と正に、この催しの柱となって下さいました。また、当日は出演者対応、舞台進行の協会スタッフも神経の行き届いた見事な働きぶりでした。それ故に残念なのは、観客の少なさです。平和を願う声をより大きくする為に、より多くの会員が集うことを心から願っています。

ボランティアグループかもめ



メディアシスト市谷柳町

10月2日 バザー開催

11月6日 救急救命講習会

岩手県宮古市訪問 (第2回) 7月15～17日



蒔村教室「秋風～郷音～朗読会」 10月6日



河崎教室「Tea Time 朗読会」 10月13日



八重洲朗読会

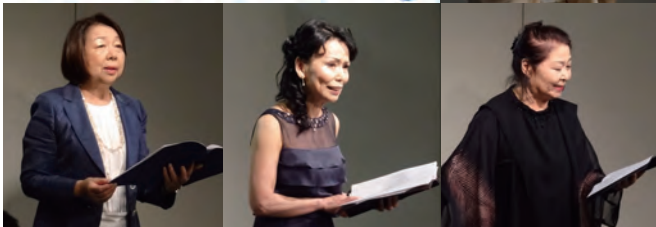
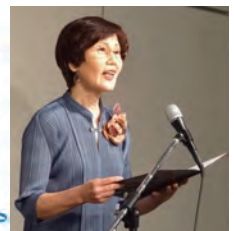
【第77回】 2013年7月20日(土)

二人静 「鶴の物語」より	白洲 正子作	坪谷美穂子
わがアイデア母さん	井上ひさし作	早川とし子
青の使者	唯川 憲 作	古内恵美子
よだかの星	宮沢 賢治作	三上美枝子



【第78回】 2013年9月28日(土)

結婚式	運城三紀彦 作	秋山 遼子
芝 浜	古典落語 より	小川 弘子
聖フランチェスコの母	塩野 七生 作	臼田 敦子
死と恋と波と	井上 靖 作	本間 恵子



【第79回】 2013年10月12日(土)

伊勢屋の黒助	池波正太郎 作	島崎 晴隆
耳なし芳一	小泉 八雲 作 (子犬-源兵衛 北村 健太)	秋山 雅子
船をかつく女	田辺 聖子 作	大幡 かおり
福島の花写真師 「ここは花の嵐」より	野口 壽堂 作 マツザキヨシユキ作 (シンセサイザー演奏 横山 一恵)	飯島 晶子



本県への思い
詩集で紹介
シエキさんが詩を
集めたので、飯島さん
NPO法人日本朗読
文化会による
「八重洲朗読会」はこ
のほど東宮中野区の
八重洲フロンティア
おき市などを訪れて
は、今まで読んだこと
ない多くの花や木から
島崎正太郎の朗読版
人の心をあふらした
「三石の嵐」を朗
読した。詩集は、郡山
市の写真家野口壽堂さ
んが本報の花を撮影
いと話していた。

▲福島民報に掲載されました！



「平和を考える集い」に寄せて

語り部

中嶋弘



太平洋戦争(第二次世界大戦)が終わってから、もう六十二年が経過しようとしています。戦争体験者も多くが他界し、戦禍を伝える人も少なくなってきました。この度、朗読の会の肝煎りで平和の集いが開かれ、戦禍の様子を語る事ができました。学童の集団疎開を手製の紙芝居で演じたり、空襲の中を逃げ惑ったりした話やら、爆弾の破片が未だ背中に入ったままの人、短い時間でしたが一端を伝える事ができたでしょうか。今、青少年たちは、日本がアメリカを始め外国の軍隊と戦争し敗れ、長い間日本が彼らの占領下に置かれていた事、これらの事実を歴史の中の一事件として知るにとどまります。占領下の日本で作られた陶磁器の裏マーク“Made in occupied Japan”(占領下日本製)を見る度に当時を思い出します。チャップリンの言葉「一人を殺せば殺人だが百人を殺せば英雄だ」。結局、戦争とは人と人との殺し合い。土地の分捕り合戦です。人類は、同じ事を何百年何千年と繰り返してきたのです。

さあ、武器を捨て外交手腕を発揮する時です。日本は外交が下手で弱腰だと言われていますが、自信を持って世界の人々と話し合い、平和に貢献致しましょう。

「平和を考える集い」アンケートより

- ◆とても良かったです。これからも活動を続けていってほしいと思います。
- ◆献読はこの会の一番素晴らしいところです。献花は辞書にあります。是非続けて下さい。
- ◆私自身いけないとおもいつつも戦争についての意識、関心が薄くなっていたため、どの内容も心に深く印象に残りました。語り部の方々の生の声、まるで目の前にその情景が浮かんでくるかのような魂のこもった朗読、そして、心洗われるような合唱、若い戦死者の最後の声。今自分がここにいられる幸せを本当に実感しました。
- ◆とても素晴らしい詩の朗読でした。平和とは何より基にあるものということがよく理解できた。それだけに心しないと思ってしまうという「こわさ」に気付く。
- ◆若い世代の人たちにも聞きに来てほしいです。
- ◆1年で1日でも平和を考える日、とても大切な事だと思います。
- ◆表面だけでなく、司会者の最後の言葉「平和が続くための事を皆が真剣に考えていかなくては」について、深く考えよう。今がその時、大切！
- ◆司会の方の最後の締め言葉。この会で一番言いたい事ですね。本当に一人一人が間違いのない方向に進んで欲しいと、声に出していかなければいけませんね。
- ◆本当に改めて考えさせる機会となりました。皆さん素晴らしかったです。

朗読あ・れ・こ・れ ～私たちは第6回朗読アラカルトに出演します～

大月富久子



子供の頃から演劇が大好きで、でも親に反対され夢あきらめ、何十年後に会ったのがシニアのミュージカル劇団。歌、ダンス、芝居の稽古、楽しい数年でした。そんな時に会ったのが朗読劇。男女二人の語りで、泉鏡花の「眉かくしの霊」。狭い部屋に座って語るその迫りに圧倒されました。ほとばしる熱気、目の動き、見事に鏡花の世界が充満していました。朗読ってすごい。作者の思いを読み込み、言葉を声に乗せ全身を使って表現し、聞き手の心に伝える。素晴らしい世界に出会えました。

佐藤すみ江



小学生の時の担任の先生が、発表力の乏しい私を国語の時間に指名して、教科書を朗読？させて下さった事が、その後の図書館通いへと繋がって、後に会ったのがパールバックの「大地」でした。夢中で読みました。でも理解は充分でなかったと思います。しかし今なら、農民の土地に対する愛着、執着がどのようなものだったか、又、今の中国を感じながら朗読もできるのかな？と思ったりしている昨今です。

関まさ子



はじめまして。朗読の日、八重洲朗読会の各2回お聴きして、5月に入会した新人です。朗読という文化は、日本語ならではの豊かさ、言い回しの数々は朗読者にとっては胸がわくわくすると同時に思い悩まされるところと感じています。アラカルトが最初の舞台。楽しみ、でもドキドキの私です。

河西和子



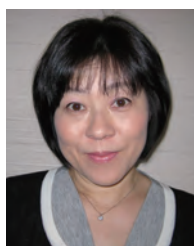
9年前に初めて「朗読の日」を見て先輩諸姉方々のご活躍を拝見し、私も頑張ればああいう風になれるかと思いました。演劇、義太夫、狂言等も勉強させて頂き、朗読というのは演劇に限りなく近いと思い、声の力で文章に含まれる背景や考え等表現するのは本当に難しいと感じます。でも、色々な主人公になれるのは楽しいですね。

鶴田佳子



おはなし会で思いだすのは、父の「耳なしほういち」。学校で配給されるくじに当たって、雪道もやっと長靴で歩けるようになったところです。小学校教師をしていた父が、冬の子ども会で「ほういち、ほういち」とお話してくれました。帰り道は耳に残るその声がこわく、家まで必死にかけぬけました。それから、暗い所ではその声が聞こえてくるような恐怖感がありました。久しぶりに思いだした父の「耳なしほういち」に胸キュンです。

福田きよみ



私にとっての朗読は、約2年前ボランティアグループ「かもめ」からスタートしました。月に1、2回老人施設を訪問しての朗読、10分程度の作品を選ぶのに最初は苦労しましたが、「面白かった、また来てね」などと声をかけて頂くのが何よりの励みとなっています。ただ・・・回数を重ねるにつけ、会員の皆さんの朗読を聴くにつけ、この世界の奥深さには思わずため息が出てしまいます。いつの日か、私も「相手の心に届く朗読」を！

イベント情報・第6回朗読アラカルト

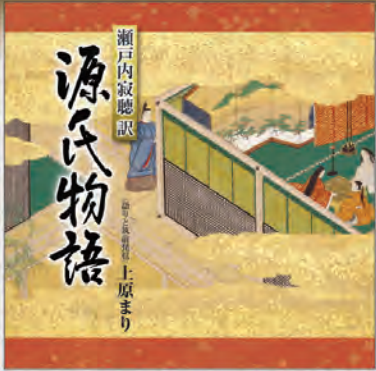
日時：2013年12月15日(日) 12:30～18:30

会場：港区高輪区民ホール

入場料：無料

皆様お誘いあわせのうえ、ご来場ください。30名の会員(新人多数)が出演いたします。

瀬戸内寂聴 訳「源氏物語」



源氏物語

（語りと筑前琵琶）
上原まり

好評発売中

CD全6タイトル
定価・各2,000円（税込）

瀬戸内寂聴訳

千年前の王朝の世界へ誘います

- ◆ 空蟬・夕顔
■ KICG15070
- ◆ 明石・松風・薄雲
■ KICG15071
- ◆ 若紫（上・下）
■ KICG15072
- ◆ 紅葉賀・花宴
■ KICG15073
- ◆ 葵（上・下）
■ KICG15074
- ◆ 玉鬘（上・下）
■ KICG15075



声に響きあう朗読の魅力 瀬戸内寂聴訳 源氏物語

好評発売中

KICG-5068~69
CD2枚組
定価3,000円（税込）

心と心が響きあう朗読の魅力

- ◆ 朗読：NPO日本朗読文化協会
宮崎弥生・秋山雅子・岩瀬弥永子
福田雅世・飯島晶子・安倍真壽美
坂本有子・加藤敏子・松島 邦
- ① 桐壺 ① 末摘花
- ② 藤壺 ② 朧月夜
- ③ 空蟬 ③ 六条の御息所
- ④ 夕顔 ④ 明石
- ⑤ 若紫 ⑤ 源氏物語の魅力
（巻頭）瀬戸内寂聴

【第42回】日本レコード大賞[企画賞]受賞作品!

昔話ふるさとへの旅

21世紀へつなげたい「ふるさとの昔話」。
全国47都道府県を地元の言葉で現地録音。

全47タイトル
好評発売中
各定価 ¥2,000（税込）

温かく、優しく聴えてくれる
「ふるさと」がいっぱいあります。



【CD全47タイトル】■KICG-3181~3227 ジャケット表紙絵：鈴木ひろえ

市原悦子さんのナレーションで始まる「昔話」。

7年の歳月をかけて現地の語り手によって、生の声を
現地収録いたしました。貴重な伝承文化遺産である「昔話」は、
大人や子供達にとって大切な「心のふるさと」です。

7年の歳月をかけて現地で収録した全国47都道府県の「ふるさとの昔話」の数々。
かつて「昔話」は、子供達への楽しみや教訓、日常生活意識を反映しながら語られて
来ましたが、情報文化の発達した今日、「昔話」は大変貴重な日本の伝承文化財産とな
っています。
このCDでは全国のそれぞれの地域に昔から伝わる「昔話」を中心に、現地の語り手によ
って地元の言葉で現地収録しました。
大人や子供達にとっていつまでも「心のふるさと」として、今後私達の生活の中で育まれ
ていきますことを、心から願っています。

美しい
日本語

全65タイトル好評発売中!



美しいことばと豊かな心

Roudoku Series

朗読CDシリーズ心の本棚

【第一弾】 【第二弾】

CD全15タイトル 各¥2,000円（税込） CD全15タイトル 各¥2,000円（税込）

【第三弾】日本の詩歌

CD全15タイトル 各¥2,000円（税込）

【第四弾】名作を聴く

CD全10タイトル 各¥2,000円（税込）/2枚組各¥3,500円（税込）

【第五弾】日本人のこころと品格

CD全10タイトル 各¥2,000円（税込）

■詳しい資料をご希望の方は キングレコード株式会社 〒112-0013 東京都文京区音羽1-2-3 ストラテジックマーケティング本部 制作第二グループ 03-3945-2119

キングレコードの朗読CDはお近くのレコード店でお求め下さい。又は下記へ直接お申込み下さい。

●下記によるご注文の商品の送料(¥600)はお客様のご負担となります。

フリーダイヤル 0120-340-670 インターネット <http://www.kingrecords-eshop.jp> (キングレコード・イー・ショップ)

FAX 03-3945-9086 ハガキ 〒112-0013 東京都文京区音羽1-2-3 キングレコード(株)内キングダイレクトアクセス行



KING RECORDS

キングレコードの情報は
<http://www.kingrecords.co.jp>

h!samatv